



一宮町長
馬淵 昌也

7月25日から27日までの3日間、釣ヶ崎海岸で、東京2020オリンピックサーフィン競技が開催されました。ご協力を頂いた町内の皆様に、深く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、無観客となった本大会でしたが、大きなトラブルもなく、順調に予定をこなすことができたのは、大変幸いなことでした。特に、この時期は、一年で最も波がない時期だといわれますが、遠くに台風が訪れ、望外の大型の波となったことは、競技開催にとっては、ありがたいことでした。普通のサーファーの方は、決して入らないような海のうねりでしたが、世界のトップサーファーにとつては、見事な技を繰り出す舞台として機能し、すばらしいハイライトをたくさん見せてくれました。

また、日本の方が大いに活躍されたことも、日本の観客の方をひきつける要因としてはたりました。一宮町の大原洋人さんは、見事な逆転劇も経てベスト8まで進み、五十嵐力ノアさん、都筑有夢路さんは、それぞれ銀メダル、

銅メダルに輝かれました。こうした日本の選手が、外国の方々に伍して繰り出されたダイナミックなサーフィンの技は、若い世代のサーファーの方々に、ますます精進して、先輩たちに続いて世界を相手に活躍したい、との気持ちを掻き立てる力をもったことでしょう。

心残りなのは、無観客となったことで、町の中で会場に入場できた方は殆どおらず、町の皆様とオリンピックとが、直接体験という形で結びつくことができなかったことです。ただ、中継の動画が鮮明で、臨場感にあふれ、競技のすばらしさを如実に感じられるものであったことは、ありがたいことでありました。

今後は、このオリンピックにより向上した一宮町の知名度を生かし、町の発展につなげてゆくことが課題となります。一方で、オリンピックに先立つ頃から、新型コロナウイルス感染症が急激な拡大を示しています。まずはコロナを押しさえ込み、その上でオリンピックの正の遺産を生かしてゆく戦略を、皆さまと一緒に具体化してゆきたく存じます。どうぞ、引き続きご協力をお願い申し上げます。